

**世界防災フォーラム 仙台市主催プレナリーセッション**  
**『より良い復興』の実践的な取り組みと今後の方向性 開催結果概要**

1. 日時 平成 29 年 11 月 26 日（日曜）12 時 50 分～14 時 20 分

2. 会場 仙台国際センター会議棟 大ホール

3. 主催 仙台市（まちづくり政策局防災環境都市推進室）

4. 入場者数 370 名（うち外国人 60 名）

5. 構成・登壇者

○基調講演 仙台市長 郡和子

「仙台発『より良い復興』—『Build Back Better』仙台モデルの提示—」

○パネルディスカッション

■コーディネーター エフエム仙台 防災・減災プロデューサー 板橋恵子氏

■パネリスト 若林区南材地区町内会連合会会長 菅井茂氏

一般社団法人パーソナルサポートセンター常務理事 立岡学氏

HOPE FOR project 代表 高山智行氏

仙台市まちづくり政策局次長兼政策企画部長 梅内淳

6. 内容

基調講演では、仙台市が取り組んできた復旧・復興事業の中から、「より良い復興 (Build Back Better) (※)」の事例として、「避難所運営の見直し」「被災者生活再建加速プログラム」「震災復興メモリアル事業」の 3 事業を紹介しました。インフラ整備等のハード面で語られることの多い「より良い復興」ですが、こういった市民の力を生かしたソフト面の復興こそ、仙台が世界に発信できる「より良い復興」のモデルであると話しました。

続くパネルディスカッションでは、これらの事業に実際に携わったパネリストの方々から、ご自身の取り組みについてお話いただきました。菅井氏からは、若林区南材地区での避難所運営対策についてご紹介いただき、町内会、行政や企業と平時から顔の見える関係を築いていくことや、様々な市民が訓練の担い手となることの重要性について議論しました。立岡氏からは、行政だけでは成し得ない支援として、仮設住宅の入居者に対して述べ 15 万回以上個別訪問し、見守りや就労支援を行ったことについてご説明いただき、被災者支援事業をいかに平時の支援事業のなかで展開するか、また、伴走型相談支援等ソフト事業への補助を拡充する仕組みについての提案がありました。高山氏からは、地域住民の方が荒浜に集まり思いを馳せる大切な場づくりのために、毎年 3 月 11 日に願いをこめて風船を飛ばすイベント「HOPE FOR project」を開催していること、地域住民の方の声なき声に耳を傾け、これからの人の姿を想像して、皆が「より良い復興」について考えていくことの重要性が語られました。

## 7. 参加者からの声（アンケートより）

- ・内容が具体的で、個人や集団として災害時どうすべきか参考になった。これから自分がやれることを模索してみたい。
- ・平時からのつながりがいかに大切か改めて実感した。
- ・ソフト面でのサポートを早々に進められた事は、仙台市にとって大きな強み。
- ・震災の記憶を風化させないための取り組みが一層必要。
- ・県内外の中・高・大学生に聴講してもらい、災害多発国としての意識を持って欲しい。
- ・災害とは何か、体験を伝える重要性や難しさを再認識した。
- ・このような会議の継続により、一人ひとりが防災への意識を持ち続けてほしい。
- ・果たして本当に「より良い復興」がなされているか疑問に感じることもある。

### ○基調講演



### ○パネルディスカッション



### ※「より良い復興（Build Back Better）」

第3回国連防災世界会議の成果文書である「仙台防災枠組 2015-2030」に記載されている概念のひとつ。復旧・復興の過程で、まちを単に災害の前の状態に戻すというだけではなく、被災後の教訓を踏まえて、災害に強いまちづくりを進めながらや、災害発生以前からあった課題も解決するようなまちづくりを行うこと。